

あなたに

出逢えて：

— 第二十二号 —

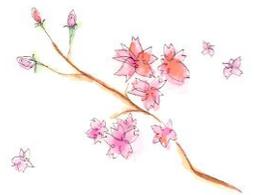
——卒業、新入学準備のシーズン、私たちの心も——

一ヶ月ぶりにみなさんにお会いしたんですけども、一ヶ月間一生懸命色んなことを経験されて、一番大変な時期の方もいらつしやると思えますけれども、なにかしらお疲れの中にも暖かい、また前よりももっともっと輝いている、そういう感じを受けました。暖かい雰囲気の中華また始められる事、とても有り難く思っております。

私事ではございますけれども、私と藍の母、私達の母なんですけれども、初めて、今日突然ですけど参加させていただきますました。

先生からお声を掛けていただいて母がどうするかと思っただんですけど、
「喜んで行かせて頂きます」という返事をくれました。年齢とか立場とか仕事とか関係なくこの会がいつも皆さんのプラスになっていく事、それを母も何かしら感じ取ったんだと思います。

母が一番年長ではございますけれども、皆様のお話でいろんな学びをしたいと思つて参加させていただいております、どうぞ宜しくお願い致します。



今日は、紫苑さんと藍さんのお母様がいらつしやつて、有り難いなと思ひました。はるみ会がスタートして、個々に皆さんが努力をなさつて、お互いが違和感無くすつと溶け込んで一ヶ月に一度お会いし、「あの元気でこられてるみたい」といふ気持ちが出ています。

今年の一月に、自分の事は考えまいと、一所懸命ひとりでも多くの方にと、その精神を持つていこうと決意したので、その流れだと思ふんですけれど・・・、お母様はずつと年上でいらつしやいますし、色んな意味で実践とか経験があり、お母様みたいな方も一緒になつてお互いに刺激しあつて勉強させられたらどんなに良いだろうといふことを、考えるようになって、思い切つてお電話させていただきました。

そしたら、ひとつの何か違うものが開くんじやないかなと、ここの中にいらつしやる方のお母様とか、ご両親様なんかも分かつていただけたらどんなにありがたいだらと思ひます。

局面にぶつかつてそのお母様を助けたいんですけども、やはり心が行かないので、少しでも分かつていただければという思いがあつて・・・

私も、私はこうなんですよってことをするわけじゃないんですよね、でも、ちょっと触れられる事によってまたいい方向になったらということを凄く思っ、こういう流れになつてきたんですけど。

お母様が一緒にこんな風にこの場所に御座りになつてお話を聞いてくださつて、他の方達も違う意味でまた勉強をさるんじゃないかなと思つております。

だから、今日はきつと良いまた違う感覚のはるみ会になるんじゃないかと思つて、とても有り難いなどという気持ちでずつとおります。今日一日宜しく願ひします。

お母様から一言よかつたらおっしゃつてくださいます。感じるままにおっしゃつてください。

— お母様 —

娘達が、いつもお世話になつてましたんですけど、ちょっと私みたいな者が、寄り付きにくいような感じがしてたんです。

でも、ちよつとお話伺つてもいいかなと、おそるおそる伺つたところですね、自分の気持ちを全部吐き出してしまつたんですね。

それで、すーつとして。

今度いつおよび頂くかなと思つて、心待ちしてたんです、四、五日前からですね。今日も朝からずーっと待っていたらお電話頂いて、ありがたく来たんです。皆様もお母様方をどうぞ誘つていらしてください。

私も七十五歳になりますので、今から改めて修業させて頂きと思つております。

— 先生 —

有難うございます。

はるみ会の皆様にも、必ずお母様いらつしやるでしょう。

私ね、お母様たちとも気楽に話せて、はるみ会の中に入れたらいいなというのがいつもあつたんですよね。

私より年上になるとやっぱり人生経験長くていらつしやるので、どうしても一歩下がつてたんですよ、でも、紫苑さんのお母様をみさせて頂いて、やはりお母様たちとも接触できたらどんなにいいだろうという思いが凄くあつて、いまそんなふうにおつしやつてくださつたから、私は凄くありがたいと思ひますね。

やっぱりお母さんというのは、産んであるじゃないですか子供をね。

ここに居る方は絶対親を尊敬しなくてはいけませんよ、尊敬というか、お母さ



ん有難うってというのは絶対的なんです、そこが根底なんですよね。

だから、そういう思いでお母さんを呼ばれて、そこで親子で何らかの形で接触するって事はもう絶対に人間作つた神様喜ばれると思うんですよね。

だから本当に今日はお母様来てくださって・・・

私は凄く遠慮があつて、お母様は年は上だし、私はそんな年端も行かないのに何か言葉がぽつと出て失礼になるんじゃないかという思いが何時もあつたんです。

だけど、そういう事かなぐり捨ててすつと来て下さったのでなんかまた一つ光明を得たような気がして、ありがたいと思えますね。そして、ご年配のお母様たちにもお助けしたいというのがいつも有って、だからそういう意味では来てくださって、そういうふうな声を掛けてくださつたという事はまた、新たに進展が出来るなと思つて感謝いたします。

ありがとうございます。

— 紫苑さん —

先生有難うございました。

そろそろ新学期という事で、色んな形で忙しく動かれていると思います、その中で



も色んなご苦勞やご経験を沢山されて、なにか私達それぞれ話を聞かせていただいで多くの学びを今日はもつと、いつもよりも多く学べるような気がいたします。どうぞお一人ずつまたお話を聞かせていただいでよろしいでしょうか。宜しく願ひします。

— はるみ会の皆様、今日はお母様への思い、お母様と接していく中での葛藤、慈しみ、そして感謝のこころをそれぞれに話して頂きました。 —

— 瑠璃さん —

今日は、紫苑さんご姉妹のお母様が、いらっしやっていて、とても嬉しく思っております。

私も親になってみて親に対して感謝する気持ちをしみじみと感じております。私にとつて家業を継ぐという事は、親に対する感謝の表れだったんですね。継ぐ事が感謝と言うことではなく、家業を継いで親の存在がすごいなと改めて思っています。三人姉妹おりますけれども、みんな大学まで行かせてもらって、育ててもらって

教育を受けさせてもらってあたりまえに思っていた事が、すごく大変なことだったんだなど、今さらながら感謝しています。

どこの家も同じだと思えますが、初代とか先代とか創業者は本当に凄いといつも思わせていただいています。

本当に紫苑さんのお父様とか本当に凄いと思っています。家の父も凄いと思います。自分の父母を褒めるのはおかしいと思えますけどつくづくいつもそう感じます。私がさせてもらっている事は、次の世代につなげるものに今頑張ればいいなど思っているのが本場で、先代の頑張りにはとてもとてもおよぶものはありません。でもひとつでも受け継ぐものを、たくさんの人に分かち合える自分になりたいなど、それはいつも思っています。

父が生きていたときにはなかなかわかりませんでした。わかっているつもりでした。ですがそれは私の「おごり」だったんですね。

その時は、一生懸命試行錯誤しながら、いろんなことにチャレンジしていたつもりだったんですが、父達がやってきたように誰にも頼らず自分の力だけを信じてやってきた。もうそれは本当に凄いことです。私達が見習うとすればそれに負けないだけのチャレンジしかないんです。

スポーツという先駆けるな事を父がやってくれたものですから、それに対しての

基金を創ることが、私達夫婦の夢です。私が父に見てもらおうとすればそういうことだと思っっています。

先生がおっしゃっているようにDNAを頂いてる部分…それを「誇り」に思えるように仕事をしたいとおもっています。

— 紫苑さん —

皆様どうもありがとうございます

お一人お一人お話を聞かせていただいて、また本当に分かっているようで分かっていないんだなというのをまたあらためて感じさせていただきました。

また本当今日は親への感謝って言う事を皆さんからまたあらためて聞かせていただいて、私は自分達姉妹そろってはるみ先生のお導きにより今がありますけれども、その事を母や両親には理解をしてくれている事が何よりも私達は有り難く、親にはその辺は一番感謝しております。

一緒に歳つになっても生きている限り学びなんだなということを両親を見てても思いますし。本当に私達は先生のお陰でやっとここまでできましたけれども、お若い方が一生懸命お若いうちから色んな事に立ち向かって学ぼうとなさってる姿と

いうのは本当にありがたいと思います、自分達が出来なかつた分とてもありがたいし、頑張っていたいただきたいと心から思いました。

姉と私も負けないように、また、両親にももつともつと長生きして、やっぱり生きてて良かったって、その言葉を私達は聞きたいので、精一杯学ばせて頂いて何かしら親の為になるように生きていきたいと思っておりますので、またどうぞ皆様宜しくお願いいたします。

— 先生 —



ほんと今日は有難うございました。

お母様がいらしたお陰で、とても不思議だったのは、お話されている時に全部出産シーンというんですか、皆さんのお母さんが出てくるわけですよね。

それぞれお母さんの胎内から生まれ、その状態がずっと見えて胸一杯になりました。

その時、星がボンと一個落ちた人もいたんですけど、パラパラと降った人もいたし、自然体もあつたんですけど、それは魂の部分じゃないかなと思います。

その時のお母さんの状況や気持ち、私にどんどん入って来ちゃうから、苦しいんじゃないんですけど、その感情みたいなのが入って、こんな気持ちでこの

方は誕生されたんだとか、この方はこんなだったんだなって、その自然界の状態を一人一人感じました。

子供さんを産んである方は、同じ事を経験なさって、回りまわって経験して、今日は違う感覚を沢山頂きました。

やはりお誕生日というのは、一所懸命お母さんが頑張った日なんだなって。

誕生日は、やはり本当は「お母さん有難う」なんですよね。

その方のお誕生日なんだけども、お母様が一所懸命頑張って、頑張って、頑張って下さった日なんだなって、今日また感じました。

なかなかご身内の話とか、親の話は少なかったんですけど、今日はとてもお家の話や、両親の話が出たものですから、さらにこういう事を意識して私達は学んで行くんだなってとても感じました。

今日はお母様がいらっしゃったお陰で、改めてそれぞれが深く感謝されるのではないかなと思います。

私は出産シーンとか自分で感じなかったんですけど、今日はしっかりと映像として次から次に見させて頂いて、

ある方なんかは汗が凄く出て、うわーとか思ったりしたんですよ。心臓がドキドキするくらいに感じたので、お母さんはたいがい死ぬ思いで産まれたんだなど今日は初めて分かりましたね。

皆にこれを伝えようと尚一層このころの中に、自分のお母さんは一所懸命、命がけて自分をこの世に誕生させたんだなっていう意識をまた持たれるんじゃないかなと思いました。

今日は、『自分の出生や誕生に対する有り難さ』を、勉強できた日じゃなかったかと思っております。

改めて産んでくれたお母さんに感謝ですよ。

ただどなかなか感謝しにくいですよ、現実見ちゃうでしょ。感謝の心があると、口うるさく言われたりしても、そういうもんだって割り切っちゃって、素直な気持ちで「はい」とか言えますよね。

でも、現実では身内だし、なかなかそこまで難しいですよ。

けど、今日は二段跳び三段跳びくらいに皆さんね、そこを意識して頂きたいなって強く思いました。

本当に必死で産んであるんですよ。現実はですね、今日は驚きました。凄いなど



思いました。

お母さんは一所懸命産んでくださったという意識はなかなか入りにくいものな
んですよね、忘れちゃって。

でも、一番意識しないといけないものなんだなって思いました。現在、私達は生き
ているんですからね。産み出されたからこそ居るのだから、そこが一番の原点の様
な気がしました。

もっともっと意識して思ったら心が楽になると思うんですよね。

こんな事嫌とか辛いとかいっぱいあると思うんですけど、でも産み出してもらっ
たからこそ、”となる”と、また変わられるんじゃないですかね。

結局、笑笑さんのお母様は、娘は可愛いんですよね、可愛過ぎちゃうからマイナ
スも見えちゃう訳よね。その所でお母様はトゲがびゅつと立っちゃうわけね。そ
こを笑笑さんがキヤツ子するから「嫌だ、お母さん」って思っちゃうのね。

それを何十年繰り返して来ているから、そのトゲを取ってあげて、滑らかにされると
良いんですよね。

お母さん大変だったものお産の時。笑笑さんを産む時、鉢巻されているんですよ
ね。頑張るといふ事で、神様がしたのかもしれないんですけど、凄い形相になられ
て頑張ってね、だから笑笑さんの時には凄い涙が出てきて、冷や汗はかかれるし苦

しんで産み出してあって、胸一杯になっちゃって、きつと笑美さんは、「お母さんごめんね。一所懸命に産んでくれたのね。」というのが有ったら、スーっと素直にもっと出来そうな気がしますね。ほんと必死で産んであるんですよね。だから親子で手をすっかりつないで、たとえ離れたとしても生きていかなないといけないなと思いました。

体は両親のDNAを受けて産まれるけど、魂は違う所から来ていると思います。だから、魂の部分の磨きが一番じゃないかと思います。

魂の磨きが最終仕上げみたいですね、仕上げは生まれた瞬間からスタートして、亡くなるまでに自分を上げていくような気がしましたね。

やっぱり強く意識なさる日だったと思います。

結局出生というのは自然界の中だと思いましたがね。

その所だけで実際は人間が誕生しているけど、自然体の中です。

何かのきっかけがあるからこそ、そういう言葉に出会えて、そういう言葉を発せられるので、本当に人と人との出会いは大切だなと思いました。

やっぱりお母様の存在が、そういう入り口を開けさせて頂きました。

*
*
*
*
*

さくらさんから電話がありました。

入院しているお母様の状態を言っただけで

「母は何か訴えているみたい」と・・・

あのね、お母様は、いつたり来たりしてあるのよ。

魂の方はきちつとおられるんだけど、体のほうはどんどん衰弱して弱ってあるから、生と死といえど、死の方にお迎えがきてるような感じで、そちらにいかれよとするけど、またもどってきてね。

生きている現在の自分はまだやり残している、まだしつかりしなくちやいけない、皆にとって私は必要な人間だから居なきゃいけないという気持ちが強くなったり、しばらくすると向こうのお迎えが来たりするような感覚になっててね。

だから魂がいつたりきたりしてあるから落ち着かないし、貴方もそう感じるのよ、お母様をなんとかしたいと一生懸命に思うから感じるのよ。

だけどね、それは原因が有るからそれであって、何も原因が無かったならば、この命今まで充分遣わさせていたただいたので、どうぞ神様にお返ししますという気持ち



ちになつて、すーっとお迎えが来て苦しみにはならないわけね。

でも、お母様の体の状態からいつたならば、ただ寝ていて点滴してふらふらした状態で、でも、心はね・・・

人間は生きている間は人の世話になるよりも生かされて役に立つて、お茶碗でも洗ったら役に立つ、その辺を掃除するんだって役にたつじゃない、やっぱりそこなのよね、お母様そのところで中途半端で苦しんでいるような気がするのよね。

さくらさんはおっしゃるの、「母が色んな事思っているから、私ね母の指定席を作つてあげなければいけないなと思うんですよ。」と、

そうなのよ、そうなのさくらさん、お母様は最高のスペシャリスト!

最高のスペシャリストにはね真っ赤なふわふわのやわらかい指定席を作つて舞台装置があつて、その場所にねお母様を座らせなきゃダメなのよ。

それはねさくらさん貴方が作つてあげなければいけないの。

そして、お母さんをそこに座られてね、ゆっくりその映像、生まれてきた生い立ちからずーっと、それを見てね心から満足してね、本当に人生ありがとうって、本当に心から有難うございましたって、人生に別れを告げてね旅立たれるからね。

絶対その役目よねあなたわかるわよね。

だから私たちつてありがたいね、貴方がそれを質問なさつてお母様の映像を私に

ね映し出して下さったからこそ、私に出来る言葉であって今私たちは貴方のお母様を通して人間の生と死についていうことに対して一番大事なところを学んでるのよね、不思議ね。

人間っていうのは必ずそういうところを通らなければいけないかもしれないけれども本当の狭間を見せていただいて、はーそうだなって、自分達がまた経験しなければいけないことなんだけれどもきつとまたお母様たちみたいなかたと出会って、その人達を励ましたり応援したりするためにお母様がこういう状態っていう事をしつかり私たちに教えてくださっているのよね。だからしつかり心から学んでお母様の心をしつかりここで付かんでそこを分析してしつかりしたものをお母様に与えていったら私たちは、勉強の成果を得て結果を得るって言う事だから、そのどこよね。

これは本を読んで分かる事でもないし、人から聞いて分かる事でもない、でも、生と死というところをしつかりわからないとね。

だから行ったり来たりしてあるの、でも、行ったり来たりしないでこっちに落ち着かせてその椅子に座らせて映像をみせるまでに持っていく努力、それはそばにいる私達の務めなのよね。現実的にあなたがその目でみてその心の感性で私に電話してきてるでしょう、だから母がこうなのよ、というたった一つ言葉で、私は百ぐらい

回答がでるんですよ。これはしつかりお神様がおっしゃっている自然体のね、万象よね。

お母様を椅子に座らせて、その映像を見て納得させるには相当な努力と心が必要だと思うの。

お母様が満足される、これまでありがとう、あなたはこれも私に与えてくれたのね有難う、心も与えてくれた、物も有ると思うんですよね、例えば八十八箇所回つてこられたでしょう、その時に色々貰ってこられたのをお母さんに渡したりすると、わー嬉しいこれ待ってたのよと言われたらその心がね、

だから何かを与えなければいけない物も有るかもしれない言葉もあるかもしれない、そこでばつと知恵が働いてパツと何か状態が出てきたならばそれはものすごくタイミング良くあるものを与えた、仮にね紫の風呂敷かもしれないお写経を書いた紙かもしれない、お寺に行つて貰ってきた札かもしれない、でもお母様があるがどう、私これが欲しかったのよといって、一つ一つ満足してこれもクリアあれもクリアしていった時にそのストーリーっていうのは流れていくからきちつと最後は終わり、エンドが出るんですよ。

そこなのよ、でも、お母様の思い描く地をばつと浮かばせてもらったり、そういう体験をさせていただくって事は日々のさくらさんの務めなのよね。

だから、そのところが私達の勉強。これだけ私が自信持てあなたにいつていることは、確信持っているから。

私つてとても不思議、自分で言いながらにして聞いているでしょう、でも、誰か何かあつて助言するとき、前こういうこと言葉に出したからこの方もそうじゃないのかなつて、ここであえいで苦しんでいる、このところをすっかり納得すればすーつとスムーズにこの世にありがとうつてされていくんじゃないかなと、一つの体験よね。だからお母様は本当に見本を見せてくださっているの。

だからお母様が愚痴を言ったり、わがままを言われるつてことは、あなたに対する質問やら問いかけをしてあるから、それに答えてあげればきつとスムーズに行くと思うの、答えていく事によつて納得されて一枚一枚クリアして変わっていくんじゃないかなと思うのでね、とにかく頑張りましょう。

二人ともありがたい気持ちになつて、お母様を通して勉強になるんだなと思つたんです。

今私がかうやつて話しているのもきつと皆が通らなければいけないことだからよね。なぜかというつと両親もいるお祖母様もいる、今みたいな話を聞いていたら、

あつそういうえばこんな話を聞いていたな、きつと今横になつてゐる父は辛そうだけど、こういうことがあるからじやないかなという気持ちになつて、聞いたことを自分に置き換えて、そしてその人に自分が何をしてあげたらいいのかを考へさせていただくときに、初めてふわつと知恵が浮かんで、あつそうかここを待つてゐるんだ、私はこのことだつたら出来るから・・・

今横たわつてゐる母は二十年くらい前にあそこに行つてあれが楽しかつたのよ、食べたかつたのよと言つてたな、そしてそれが今は買えるからこれを買つて持つていつたら母は喜ぶかもしれないし・・・

知恵とか心が湧いてくる、やっぱりそこが大事じやないかなつて、いろんな教えが大事かもしれないけれども現実的に役に立つていく、そのことを実行したり、またさせて頂く事によつて、自分自身がそういう心にならせて頂いて、という向上があるんです。そして、私はこうだったのと、またそれを誰かに話したとき、あーいい事聞いた、じや私もそういう局面に出会つたときにまたその実行ができるんだなつて。

だからね、本当に本を読んで学ぶことではなく、目の当たりにして聞けるからしつかり身につく、本当にありがたいことだと感じました。

* * * * *



*
*
*
*
*

— あとがき —

自分が今この世に現在いるという事に

『感謝』

まだこれから 生かして頂いている事に

『感謝』

第三十七回春満会

会場 魚一

日時 平成十八年三月十三日七時半 より

*
*
*
*
*

